



2020年オリンピック・パラリンピック大会 に向けた多言語対応に対する取組み

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会運営局 会場サービス部サイネージ課

2019年12月24日

東京2020大会用サインの役割

- 東京2020大会の各会場において、全てのステークホルダーをそれぞれの目的地にスムーズに案内・誘導する

大会用サインの構成

- 競技大会のアイデンティティを投影し、競技大会のルック(装飾)を統合する要素である



東京2020大会 コアグラフィックス

- 東京2020大会専用のピクトグラムを用いる



東京2020オリンピックスポーツピクトグラム

大会用サインの構成

- ユニバーサルデザインに配慮した書体を用いる
- 日本語と英語の2カ国語表記を基本とし、必要により仏語を加えた3カ国語表記とする



2012ロンドン大会
(英語のみ)



2016リオデジャネイロ大会
(ポルトガル語・英語)



2018平昌大会
(韓国語・英語)

これらの構成を前提とし、多言語対応に対し次の事に取り組んでいます

多言語対応に対する取組み（日本語と英語の文字比率）

- 従来国内での公共サイン類の表示は和文100%に対して多国語45%～66%が多く用いられ、最大75%のものもある。



環境省 自然公園等施設技術指針 H25.6 抜粋

文字比率 75%



一般社団法人 全国道路標識・標示業東京都協会
道路標識設置の手引き 抜粋

文字比率 約66%



駅構内案内サイン例

文字比率 約50%



歩行者系案内サイン例

文字比率 約45%

多言語対応に対する取組み（日本語と英語の文字比率）

- 国内基準的には和文に対する多国語の文字比率は最大**75%**程度としているが、2020大会用サインではインバウンドの競技観戦者に対してより確認しやすい文字比率**85%**の採用を検討している



日本語テキスト
Text in English

和文100%に対し英文75%



日本語テキスト
Text in English

和文100%に対し英文85%

ご清聴ありがとうございました！

Thank you!